

「ぼくに、おこったこと」

近江八幡市立馬淵小学校 四年 松並 麟太郎

八月のはじめごろ、とてもむしあつい日がありました。お母さんが、仕事から帰ってきたころ、急に空が暗くなって、雷が急に鳴りはじめました。すると風がふきだしました。空も真っ黒になって、風もどんどん強くなってきました。ドキドキして、風がなくなったあと、そとがどうなってるか心配になりました。いつもとちがう風と雨だったからです。「えっ、これってたつまき。」とお母さんが言っていました。雨と風が三時間ぐらいにおさまりました。その後、外を見に行ったら、スダレがおれていて、バケツが飛んでいて、木がおれていました。それを見て、初めてのことでびっくりしました。急いでお父さんとお母さんが家の周りを見にいっていました。ぼくは、風もふいて、寒かったので急いで家に入りました。

お父さんとお母さんは「たつまきってこわかったなあ、こんなことになるの、ビックリした。やねも見ておいてくれるかなあ。」とお父さんに言いました。外に見に行った後、こんなふうになるんやなあ、かわらもちょうとうごいてたから、すぐになおしてくるわ。」と、なおしに行ってくれました。

後できいたら「お父さんの、友だちの家の屋根のかわらがめくれたらしい。」と話していました。お父さんは、すぐになおしてくれました。

今もテレビで、台風のニュースをしています。山がくずれたり、川がはんらんしたり電車が止まったり、飛行機がとべなくなったり道が通わなくなったり、橋が流されたりしていました。ビックリしたのは、家といっしょに人も流されたことを聞いたとき、なにかしらどうなっていくかふあんになってきました。ぼくの家の方は、雨は多くふったけれど、だいじょうぶでした。

お母さんが、一人ですんでいるおばあちゃんに連らくしていました。おばあちゃんは一人ですんでいるので、前の日からお水とか、食べ物、ろうそく、かいちゅう電とうを用意して、家の周りをかたづけていたそうです。

ぼくは、台風やさいがいの時、お父さんやお母さんのように、人のことを思いやったり連らくしてささえあったりするのが大切だと思いました。

おぼんに、おばあちゃんの家に行った時、十年前に、おばあちゃんの家もさいがいにあって、ボランティアさんがたくさん来て助けてもらったそうです。おばあちゃんは、とても助けてもらってすごくよろこんでいました。ぼくはまだ生まれる前だからよく知らなかったけれど、ぼくも大きくなって、困った人がいたら助けてあげられる人になりたいと思ったのです。

「 なくなれ土しゃさいがい 」

近江八幡市立安土小学校 三年 坂本 瑠梨

わたしは、土しゃさいがいのニュースを見ました。山から土が川みたいにながれて、家がながされたり、くずれていました。道路は土まみれになっていました。台風や大雨でみじかい時間でたく山の雨がふることでおこります。どうして雨がふると土しゃさいがいがおこるかと言うと、山の土がたく山の水をふくむと弱くなって、くずれるからだそうです。土しゃさいがいでは、地すべり、がけくずれ、土石りゅうなどがおこります。どれもこわいなと思いました。台風や大雨などの時は、ひなんがひつような事があります。がけの下や谷の出口などきけんな場所に家がある人がひなんがひつようになります。天気よほうで、大雨けいほうが出た時は、市町村からひなんじゅんぴや高れいしゃなどひなん開始のれんらくがあります。土しゃさいがいけいかいじょうほうが市町村かられんらくがあつた時は、ひなんかんこくやひなんしじが出ます。高れいしゃのひなん開しが早いのは、ひなんするのに時間がかかるからなのかなと思いました。大雨や台風の際は、天気よほうをこまめにチェックしてひなんじゅんぴをしようと思います。ここでわたしがぎもんと思ったのは、ひなんかんこくとひなんしじのちがいです。わたしはひなんかんこくとひなんしじは同じだと思っていたけれど、調べてみると、ちがいがある事が分かりました。ひなんかんこくは、さいがいによるひがいがよそうされ、人へのひがいが発生するかのうせいが高まつた時に出るもので、ひなんしじは、土しゃさいがいがおきるなど、じょうきょうがさらにわるくなり、ひじょうにきけんになった時に出るもので「ひなんかんこく」よりも強いじょうほうであることが分かりました。

わたしは、この作文を書くまでは、土しゃさいがいがどういうものか、なぜおこるか、どういう時にひなんがひつようかなどまったく知りませんでした。この作文を書くことで、土しゃさいがいについてたく山学ぶ事ができました。土しゃさいがいによって、人が行方ふ明になったり、なくなってしまうたり、とてもおそろしいなと思いました。

わたしは、土しゃさいがいをへらしたいと思いました。土しゃさいがいがおこりそうな所には、コンクリートのかべをたてたりするひつようがあるのかなと思いました。少しでもひがいがへればいいなと思っています。

「また伊吹山に登れる日を」

東近江市立能登川中学校 一年 谷澤 あかり

「日本百名山・伊吹山、シカ食害で？土砂崩れ」私はそのニュース記事を見て唾然とした。

八月十二日、伊吹山は集中豪雨により土砂崩れが発生した。原因はニホンジカによる食害で、植物や木がなくなり、山の保水力が低下したためだという。温暖化によって伊吹山の積雪量が減りシカの行動範囲が広がったため、食害も深刻化していったようだ。伊吹山では近年、山に生息するシカが貴重な高山植物を食べつくす「裸地化」が問題になっており、裸地化が進むと地面がむき出しになり、落石が生じやすく、また、地面の保水力が低下するため、土砂流出が起きやすくなるという、伊吹山は元々石灰質の多い地質のため、裸地化で保水力が一気に下がったらしい。幸い、けが人はいなかったようだが、登山道は封鎖されている。登山道の復旧のめどは立っておらず、この夏や秋に復旧するのは難しいとのことだ。

私は幼いころから登山が好きで、伊吹山にも何度か登ったことがある。去年の秋にも登ったのだが、元から土砂がむき出しになっているところは、登りにくかったことを覚えている。特に六、七合目は既に土砂崩れ状態となっており、まるでがけ登りをしている気分だった。頂上に近づくにつれ、だんだん草木がなくなっていくのを実感した。また、下山している途中、近くにニホンジカの群れを見たこともあった。子連れの子カもおり、皆熱心に草を食べていた。当時はただの子カとしか思っていなかったが、愛くるしい姿とは裏腹にシカによって食害が起こり、結果的に土砂災害につながるということを知り、愕然とした。

幼い頃の私は、祖父母と共に山に登ってはいたものの、山の環境を知ろうという気は全くなかった。しかし博物館の展示や小学校での森林体験学習で、森林を育て土砂災害を防ぐ模型を見たり、山に木があることで土砂崩れが起きにくくなるという実験を見るうちにだんだんと森林を取り巻く環境にも興味を持つようになってきた。「やまのこ」で行った実験とは実験用の模型に片方には土だけ、もう片方には木や植物と土を入れそこに水を流しこむと、土だけの模型は土砂はそのまま流れ、にごった水が多く模型の底にたまった。一方、木や植物を入れた模型は土砂があまり流れず、たまる水の量も少なかった。模型によって木や植物があると土砂災害になりにくいことを知った。今伊吹山は土だけの模型のような状態になっているのだ。模型を通して知っていたことも実際に身近で起きるとより実感を伴うのだと分かった。また、私は自分の力で環境を守ることができると考え、森の保全活動に参加したりするようになった。

私が今回の土砂崩れで気付いたことは土砂災害と森林の環境は関係があるということだ。森林が荒れると土砂災害も起きやすくなり、逆に森林が手入れされて保水力が上がると、災害は起きにくくなる。つまり、森林を守り続けることによって土砂災害も起きにくくなるのだ。今まで「保全活動をすることのメリット」しか知らなかった私は「保全活動をしなくてもどうなるか」をあまり実感していなかった。近くでは災害なんて起きないだろうと思っていた私の甘い考えを根本から覆すニュースであった。

このように、よく行く山であっても手入れが行き届いていなかったら簡単に災害は起き

てしまう。災害は他人事ではないということを実感した。

では、災害が起こらないために、森林を守るために、私たちにできることはあるのだろうか。そう思った私は、自分にできることを探すことにした。

まず、協力金を渡して応援するということだ。協力金とはその山の保全活動のために使われる登山客が有志で出すお金のことである。山を応援するためなので強制力のあるものではないが、応援の一つとして良いだろう。

次に植樹体験に参加することだ。木を植えることは土砂災害を防ぐことに繋がり、地球温暖化を軽減し、シカの個体数を減らし、山を守ることに繋がる。私は木を植え、育て、ずっと管理していくことが重要だと思う。木を守るために私たちにできることはあるのか。例えば、物を買うときに国内の木が使われている物を選ぶということだ。簡単な事だと思われがちだが、これはとても重要な事である。森林組合の人々は木を育てやすくなり、私たちは高品質な製品を買うことができる。どちらにとっても良いことだ。

このように、私は土砂災害を防ぐためにはまず森林を守り、自分にできることを考え、行動していくことが重要だと思う。課題はすぐに解決しないと思うが、また登山道が開通して伊吹山に登れる日を待っている。

「 広島ボランティアに行つて学んだこと 」

二〇一八年七月五日から八日にかけて、広島県中部では梅雨前線等の影響に伴い集中豪雨が発生しました。その影響で広島市などでは豪雨による土砂災害が発生しました。私たち家族はそのニュースを見て、現地のボランティアに参加することにしました。

私は夏休みに広島に行き、土砂災害の被害に遭つた方の家の庭に行きました。現地はひどい高さくらいまで、土砂が流れてきている状態でした。私は、土砂災害の被害に直接遭つたことがなく見たことがなかったので、その光景を見たときは、とても衝撃を受けました。

私は家に流れ込んできた土砂をスコップで土のう袋に入れ、その袋を運ぶというボランティアをしました。土砂は匂いがとてもひどいうえに、水分を含んでいたのもとても重く土のう袋に入れるのが大変でした。お年寄りの方の家に土砂が流れてきて、片付けようとしても土砂が重いので片付けることが大変です。普段通りの生活に戻るには、とても時間がかかりそうだと感じました。この経験から災害が起こつた時には、助け合うことが大切だと思いました。他のボランティアの方から声をかけてもらつたり、褒めてもらい嬉しい気持ちになりました。ボランティアに行くと被災された方が喜んでくださったので、何か手伝えることがあればまた来て力になりたいと思いました。

私はボランティアに参加して、改めて土砂災害の恐ろしさを知りました。ニュースなどで誰もが見ているけれど、想像していたものよりもずっとひどく恐ろしいものです。

土砂災害で尊い命を守るために、一人ひとりが日頃から、備えておくことが大切です。そのために、備えられることがたくさんあります。

一つ目は、自分たちが被害を受けそうになった時には、すぐにその場から逃げられるように防災バックを用意しておくことです。もし災害がひどい場合、家に帰れず避難場所で生活をしなければいけません。だから一週間分の食料、飲料、日用品などがあるか確認することです。また、食料の消費期限が切れていないかも定期的に確認しないといけません。

二つ目は、雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意することです。土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生の危険度が高まったときに、住民の自主避難の参考になるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。市町村が警戒レベル四避難指示を発令すると災害の切迫度が高まっていることを表しています。テレビやラジオの気象情報で確認し、的確に避難する判断をすることです。

三つ目は、避難場所や避難の方法を家族で話し合うことです。ハザードマップで避難場所はどこか、近くの危険な場所はどこか事前に確認しておくことです。

四つ目は、学校や地域で行われる避難訓練をしっかりと行うことです。以前、テレビで被害にあわれた方が

「本当に災害が起こることを想定して避難訓練を行つていたので、冷静に逃げることができました。」

と言つておられたのを思い出しました。改めて避難訓練は命を守るために大切なことだと思いました。このように土砂災害から自分の命を守るために、備えられることはたくさんあります。

私は広島ボランティアに参加してたくさんを知り、どれだけ土砂災害が恐ろしいものなのか分かりました。

土砂災害はいつ、どこで、誰の身に起こるのか分からないので土砂災害が起こっても、自分自身が大きな被害に遭わないために自分にできることを考え、命を守ることを最優先にしていきたいと思います。また、当たり前の日常に感謝し、いざという時のために日頃から災害と向き合っていきたいです。

「自然災害で思ったこと」

東近江市立能登川中学校 三年 上路 和華

近年、さまざまなニュースで自然災害の猛威に衝撃を受け、悲しい気持ちになります。集中豪雨や土砂災害、地震災害において、家族や住む家をなくした方々がたくさん居ます。

私は、これまで自分自身に起きたことではないことで、違う感覚のニュースとしてしか見ていませんでした。ですが、テレビでは目を疑うような映像が多く自然災害の恐ろしさを改めて考えるようになりました。そこで、「身近に起きた現実はなかったのだろうか？」人ごととして取らえていたことから、自分にも起こりうることの気づきになると思い、身近な過去の災害を調べることにしたのです。すると、祖母の実家が土砂災害にあったことを聞きました。

平成17年、台風14号で母の故郷である宮崎県高千穂町で大きな土砂災害がありました。九州に被害をもたらした台風の高千穂での被害は、土砂崩れによる住居倒壊により、5人の方が亡くなりました。また、通勤、通学や観光路線として利用されていた高千穂鉄道が五ヶ瀬川の氾濫のために、二ヶ所の橋が倒壊し、これをきっかけに廃線となってしまいました。

私の祖母の実家も、曾祖父母と長男家族の7人家族ですが、家の裏山が崩れ家の一部に土砂が流れ込み、半壊してしまったそうです。当時、曾祖父母は留守にしており、被害に合うことはなかったのですが、普段寝室として使っていた部屋が土砂で埋まってしまいました。

もし、いつものように在宅していて、寝ていたのであれば、土砂災害に巻き込まれ、命を落としていたのかもしれない。私は、その話を聞いて、血の気が引く感覚を覚えました。今までに感じたことのない感情に改めて身が引きしまる思いになりました。

自分の身は、自分で守るためにも、普段から災害に対しての知識を身につけておくことが大切になります。

私の家の裏は川になっています。一昨年の豪雨で水があふれそうになり、一晩中不安な思いをしたことがあります。近くの施設の道路が冠水してしまい、通行できなくなったこともあって、災害にみまわれた時の避難場所や危険な場所を知ることが大切だと思い、家族で話合うことにしました。まずは、自治体の想定される地震や水害、土砂災害などの危険性を示すハザードマップだけでなく、避難所や災害対策などの防災に関する情報を調べました。すると、私の家の場所は少し高い場所にあり、水害の場合、判断が遅れると、取り残される可能性があることがわかりました。また、避難場所に行くまでに一人暮らしのお年寄りや、移動が難しい方が居ることもあり、避難時には、助け合いも必要だとも思いました。

いろいろと話し合う中、自然災害を予測しての行動も大切ですが、予想もしないことが起こるのが災害だということも頭に入れておかなければなりません。また、避難所は自宅にいと危険であったり、災害によって被災してしまって自宅で生活ができない方が避難する場所であって、自宅で安全が確保できているのであれば、必ずしも避難場所に行く必要がありません。事前にハザードマップなどで自宅のリスクを確認して行動するようにすることが必要になります。

最近の最も衝撃を受けた災害で、熱海市伊豆山土石流災害が思い出されます。異例ではありますが、上流山間部の違法盛土の崩壊が原因で最悪な土砂災害となりました。土砂により家や建物もろとも流され、人々が逃げ惑う映像に、映画の一場面ではないかと思うほどでした。

「自分の身は、自分で守る。」自然災害に対して人間は弱いものです。いざという時のために、事前に身を守る行動として備えを常に考えておく必要があると思います。

被害にあった高千穂鉄道は、現在「高千穂あまてらす鉄道」として、短い区間ではありますが、トロッキ列車として観光客に人気のスポットとして復活しています。これまで、まだまだ、被災地では厳しい生活を強いられている現状があります。自然との共存の中で私たちの暮らしを守るために、どうすべきなのか。他人事としてではなく、改めて考えるべき問題だと思います。

「身近に感じた土砂災害」

東近江市立能登川中学校 三年 奥 彩香

私は県の面積の六分の一を占める琵琶湖がある滋賀県で生まれ育ちました。生まれてから大きな自然災害に見舞われたこともなく、実際祖父母や両親からも滋賀県は自然災害が少ないところだと幼少期から聞かされて育ちました。滋賀県は伊吹、鈴鹿、比良、比叡等高い山脈に囲まれ内陸県という地形の特徴から台風の影響も受けにくく、琵琶湖の存在によって洪水や地震による津波の心配もありません。土砂災害については過去の事例を見ても大きな被害はなかったように思われます。私にとっては正直身近なものと思えることはありませんでしたが、近年「線状降水帯」の発生による洪水や土砂災害の報道をたびたび目にするようになり、土砂災害やその対策について考えてみることにしました。

昨年一年間に発生した土砂災害は七九五件で、四二都道府県で発生したとあります。最初感じたことはほとんどの県で発生しており、自分が住んでいる滋賀県でも発生していたことで身近に起こりうることだということでした。また土砂災害の平均発生件数は、過去一〇年間の件数とその前の一〇年間の平均発生件数の一、二倍となっており年を経て徐々に発生件数が増えていることに驚きました。

土砂災害の発生の要因には、先ほど挙げた「線状降水帯」の発生が注目されています。雨雲が次々と発達して短時間に多量の降雨をもたらすものですが、その仕組みについては未解明な部分も多いそうです。線状降水帯などでもたらされる集中豪雨の頻度は四五年間で二倍に増えており、特に梅雨時期は四倍に追っているということでした。原因のひとつにはやはり地球温暖化があげられると思います。平成二六年八月豪雨により広島市で土砂災害が多発し、死者七七名を出す大きな被害が発生したことで線状降水帯というものが広く知られるようになったようです。

自然災害には人は太刀打ちできない部分もあるので、私たちは自分の命を守るためにどのようなことをしなければならないかを考えてみました。

まず第一に、災害がいつ身近で起こるか分からないと普段から意識を持つことが大切だと思います。そして自分の命は自分で守るということをお子から大人まで一人一人が心がけておくことも必要だと思います。

次に自分の住む地域周辺の危険を知っておくことが必要です。自分の住む地域の土砂災害ハザードマップを調べたところ、特に大雨に関する情報に注意して早期に避難を開始することが重要な「土砂災害特別警戒区域」や「土砂災害警戒区域」といった区域が示されていました。私の家の近くにもこういった区域がありました。小中学校やコミュニティセンターが避難場所に指定されていたことも知ることができました。いざという時にどこに避難したらよいか分からないでは困るので事前に確認しておくことが大切だと改めて実感しました。

気象庁は昨年から線状降水帯の予測を開始したとあります。線状降水帯発生前に大雨の可能性を呼びかけるものですが、これによって事前の避難準備や早期の避難行動につながるができると思います。たとえ結局避難をした結果避難するほどのことではなかった状況となってもそれはそれでよかったのだと思わないといけません。災害から命を守るには大げさなくらいの対応がベストだと思います。

最後に土砂災害だけでなく、様々な自然災害に地球温暖化が要因となっていると感じることが多くあります。身近でできる省エネルギー対策を私自身が心がけることが必要だと感じました。

今まで自分の住んでいる地域は安全だと過信していた部分もあるので、こういったことを意識づけて自分の判断で臨機応変に対応する力もつけていきたいと思います。

「災害について意識を持って」

彦根市立中央中学校 一年 深山 尊路

八月十五日、ぼくの住む滋賀県に台風が来ました。滋賀県内でも記録的な雨や風が観測され、各地で道路脇の木が倒れたり、畑が浸水したりと被害が出ました。また、大津市や甲賀市などでは木が倒れたり土砂が流れこんだりして八か所の道路が一時通行止めになったほか、甲賀市と東近江市の三つの川でのり面や堤防がこわれる被害が確認されたそうです。このようなニュースがあると知ってぼくは、「近年台風による影響は滋賀県にはあまりなかったと思うけど、台風による土砂災害などはこわいし、災害が起きたときの備えや知識をつけておく必要があるな」と考えました。そこで土砂災害についてもっとくわしく知るためにインターネットで調べることにしました。

「政府広報オンライン」によると、まず自分の住んでいる場所が「土砂災害警戒区域、かどうかを確認した方がいいそうです。自分の住んでいる場所が、「土砂災害警戒区域」かどうかは国土交通省の「ハザードマップポータルサイト」で確認できます。ぼくも実際に確認してみると、自分の家がある町は土砂災害警戒区域ではなかったけど、だからといって油断せずに気を付けていきたいなと思いました。

次に、警戒レベルについてです。警戒レベルは五段階あり、四を起えると必ず全員が危険な場所から避難しましょう、となっています。以前は避難勧告といい、避難指示よりも強制力を持たなかったけど、「指示」という言い方になったことで災害の危険性をより、世の中に伝えたいのかなと思いました。警戒レベル四からは全員避難ですが、警戒レベル三でも高齢者等は避難開始、となっています。重要なポイントは、警戒レベル三が発令されたら、高齢の方や避難に時間のかかる方やその支援者の方は危険な場所から避難し、それ以外の人も、普段の行動を見合わせたり避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難することです。災害発生の危険度を確認するのに警戒レベルはとても便利なので、危険を感じた場合は警戒レベルをぜひ確認してみてください。ちなみに八月十五日に滋賀県に影響を与えた台風の警戒レベルは四でたくさんの人が避難していました。

最後に 避難するときに必要なものについてまとめたいと思います。まず、最低限必要なものについてです。食料、飲料水、モバイルバッテリー、LEDライト、簡易トイレ、マスク、消毒液、除菌ティッシュだそうです。飲料水と食料は言うまでもありませんが、特に飲料水は命をつなぐことはもちろん、体をふいたり調理をしたりととにかくあればあるほど助かるそうです。続いてモバイルバッテリーです。現在スマホは情報収集や連絡手段として絶対に欠かすことができないもので、緊急時にはライトにもなる一台数役の万能アイテム。実際に災害を経験された方の声でも「モバイルバッテリーは絶対用意すべき」「と中で携帯の充電が切れて困った」などが寄せられているそうです。簡易トイレは、あるのとないのではストレスの度合いが違い、除菌ティッシュやマスクは衛生対策にも必須だそうです。他にも防災グッズではないですが現金、保険証、印鑑なども準備しておくとうれしいです。備蓄食料のおすすめは、レトルトご飯、カップ麺、缶詰などだそうです。災害が実際に起きて、避難したときは、気持ちが落ちつかないだろうし自分に合っている食べ物を選ぶことが必要だなと思いました。

土砂災害警戒区域について、警戒レベルについて、避難時に必要なものの三つについて書きました。夏休みの間に滋賀県にも台風が来て土砂災害が起こった地域があると知って改

めて災害のこわさを知れたと思うし、いつ災害が起きてもいいように土砂災害に関する知識をつけておくことが大切だと思いました。

「身を守るためにできること」

東近江市立五個荘中学校 一年 井上 莉心

最近、土砂災害のニュースをよく耳にします。大型台風や、線状降水帯、ゲリラ豪雨などの、集中的な大雨が地球温暖化などで、増えてきています。それに加え、日本には、傾斜が急で険しい山がたくさんあるため、土砂災害が起りやすいと、考えられます。二〇二一年には、静岡県熱海市で、土砂災害が起りました。この土砂災害では、死者二十七名、行方不明者一名、負傷者四名、住宅九十八棟の被害が出ました。これは、集中的な大雨による地盤の緩み、業者による不正な盛り土、土砂崩れの危険性が高い地形であったため、このような土砂災害が起きてしまいました。土砂災害は他にも、たくさん起きています。平成三十年に、土砂災害が三四五九件も発生しています。これは、昭和五十七年以降観測史上最高記録です。自然災害を、止めることはできませんが、被害をできるだけ、出さないようにするために、どのような行動をとればいいのか、災害が起きる前になにかできることはないのでしょうか。

まずは、周りの変化に気づくことが大切だと思いました。例えば、がけに、ひびが入ったり、小石が落ちてきたり、異様な音、においがしたり、濁った水が吹き出したり、湧き水が止まったり、少しでも、変化に気づいたら、できるだけ早く、避難して、自分の身を守ることが大事だと思いました。このような知識がない人も、警戒レベルを見て、避難をすることができます。災害が起きる前には、ハザードマップなどで、危険な区域を知っておくことも大事だと思います。雨が止んだ後でも、山には、水が溜まっているため、土砂災害は起きます。なので、雨が止んだからと安心してはいけません。このようなことを知っていても、中には、避難できず巻き込まれてしまう人もいます。そんな人が一人でも、減るように、一人一人の考えを変えることが必要だと思います。自分の判断で、ここは安全な場所だとか自分は大丈夫だろうと言う、甘い考えで避難をしない人がいます。みんなが関係のあることなので、一人一人が普段から、心がければいいと思いました。その他にも避難所に行きたくないと言う人がたくさんいることがわかりました。例えば、「避難所で滞在するのが不便そう」「ペットを受け入れてくれないから」「避難者同士でトラブルが起きそう」「避難所でコロナなどの感染症に感染してしまいそう」など、避難所内の環境により、避難をしない人も多いようです。ですが、自分の命は、自分で守らないといけないので、自分の身を守るためにも、このような考えを変えなくてははいけません。そのためには、避難所の悪いイメージを変えないといけません。避難所内の環境を良くすることが重要です。なぜなら、避難所のイメージは、不衛生、避難所内の気温、プライバシーがない、居心地が悪い、水や食料の不足といったイメージが多いため、あまり、避難所に行きたくないと考えてしまう人が多いので、避難所のイメージを変えることで、一人一人の考えも変えることができるのではないのかと思いました。そこで、日本以外の国は、どのような避難所なのか、調べてみました。調べると、海外では、必ず簡易ベットが準備されていて、テントで、家族ごとに生活し、食事は調理したものを食べるそうです。日本もこのように、イメージを少しでも変えれば、避難する人が増えるのではないのかと思いました。その他にも、家族や周りの人と協力することが大切だと思いました。最近ではコミュニケーションを取ることが少なくなってきているけど、このような災害が起きてしまったときこそ、コミュニケーションを取り合うことが大切だと思いました。普段から、家族で、避難する場所を決めておいたり、避難したと

きに、周りの人とコミュニケーションを取り合うことが、大事だと思います。

土砂災害はとてもこわい災害なので、早め早めの情報収集、災害が起きる前兆を知っておいたり、避難所の悪いイメージを変え、一人一人の考えも変え、家族や周りの人と協力し、避難することが大切だと思いました。

「自分たちにできること」

東近江市立能登川中学校 二年 伊藤 結衣

私がなぜ土砂災害に興味をもったかという、この前台風のときに土砂災害警報情報が発表されて、あらためて土砂災害について考えてみると、全然土砂災害について知らなかったからです。起きてからではおそいと思い、少し知っておきたいと思いました。

最初に私は、土砂災害とはどういうものなのかを調べました。土砂災害とは、すさまじい破壊力をもつ土砂が一瞬のうちに人の命や建物に壊滅的な被害をもたらす恐ろしい災害のことだそうです。土や砂で一瞬にして命が壊れてしまうなんてとてもこわいと思いました。また土砂災害の中でも、主に『がけ崩れ』『土石流』『地すべり』の三つに分けられることも知りました。がけ崩れは地面に染みこんだ雨水により、急斜面の土砂が突然崩れ落ちる現象で、土石流は谷底にたまった土砂などが水と一体となって谷を一気に流れ下る現象だそうです。どちらも水と土砂がまざることでおきていることが分かりました。地すべりは、広範囲に斜面がゆっくりとすべりおちるため、住宅、道路、鉄道などに大きな被害を及ぼす大変危険な災害だそうです。土砂災害と一つにまとめていたけど、三つに分けられて、一つ一つ特徴がありました。

次に土砂災害から自分の身を守るにはどうしたらいいのかを調べました。私は実際、土砂災害というものを体験したことはないけど、これからいつ起きるか分からないからそのときあわてないように、今のうちからできることをしておきたいと思ったからです。まずやっぱり、ひなんするときに持っていく食料や水などが必要です。私の家は五人家族なので、何日ものひなんになるとたくさんの食料が必要になり、大変だなあと思いました。また社会でならったハザードマップなどを見て、自分たちの住んでいる場所は安全かどうかを調べたり、どこにどういう道を通ってひなんするかを考えておくのも良いそうです。今までしっかりとハザードマップを見たことがなかったから、一度みてみたいと思います。ほかにもひなんするときの出入り口までの通路に、家具などの倒れやすい物を置かないこともいざという時、出入り口をふさいでしまうことを防いでくれることも分かりました。やっぱり自分の身を守るためには、事前に準備しておくことが大切でした。

最後に土砂災害を調べていく中で気になった『砂防』というものを調べました。砂防とは、斜面の土砂が崩れるのを防いだり、土砂災害から命や暮らしを守るために行われる工事や仕事のことを言うそうです。砂防を行うことで土砂災害をなくし、なおかつ、将来にわたって、土砂災害の危険性を少なくすることができることを知りました。やっぱり家でできる自分の備えだけでは、災害を防ぐことはできないけど、根本的なところから備えていくことが大切だと思います。砂防という取り組みの中で砂防堰堤という、けずられた土砂が下流に運ばれるのを防ぐためにつくられる仕切り壁のようなものがあるということが分かりました。砂防堰堤をせっちすることで、川底が削られるのを防ぎ、水の流れを遅くするそうです。そうすることで、土砂災害を事前に防いでくれます。砂防というものははじめて知ったけど、土砂災害を防いでくれる、私たちの生活にとっても大切なものだということが分かりました。

今回台風がきっかけで、土砂災害について色々調べたけど、調べてみてよかったと思います。土砂災害はどういうものなのか、土砂災害から自分の身を守るにはどうしたらいいのか、砂防とはなんなのか、一つ一つくわしく調べていく中で、自然災害をすべてなくすことはできないけど、少しでも被害や災害がおこることを防ぐために自分にできることは、たくさん

あるということが分かりました。また、もっといろんな災害について、調べてみたいと思いました。

